

公共イメージ向上に向けて ～ インパクトのあるメディア戦略 ～

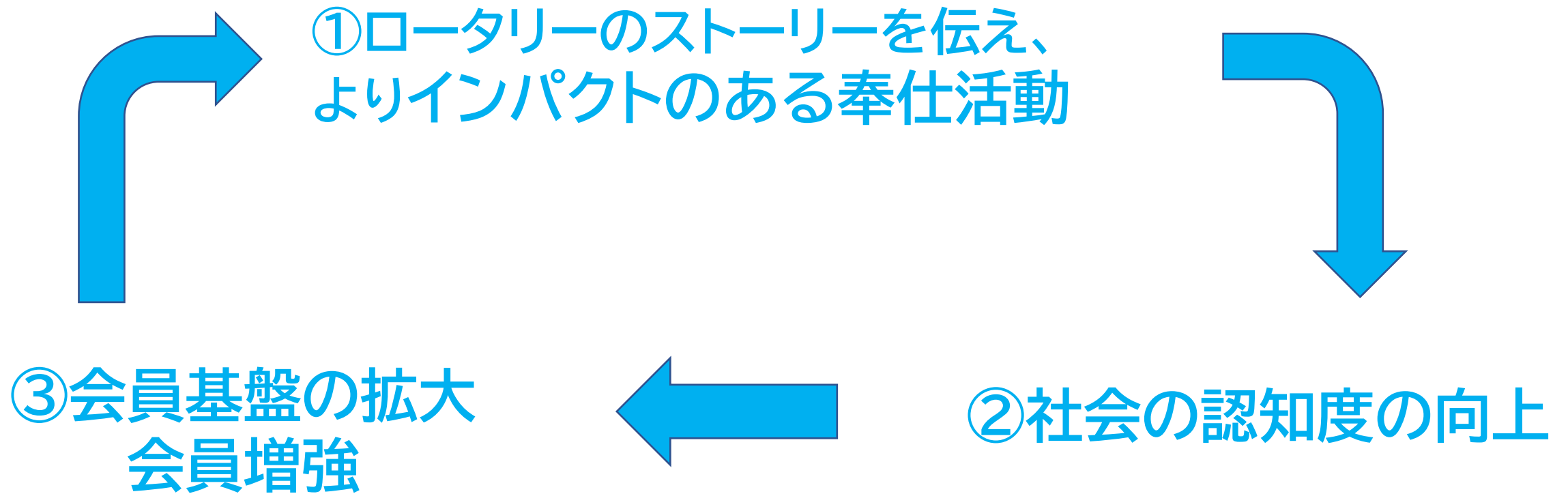
2025-26年度 公共イメージ向上員会 委員長

利倉 一彰(大阪北RC)



**UNITE
FOR
GOOD**

公共イメージ向上の目的



ロータリーの認知浸透度調査

《2020-2021年から抜粋》

- ① 認知者は年齢層が高く、若年層に弱い
- ② ロゴの認知度は全体で2割
- ③ ロータリーの認知度は6割程度
- ④ 認知経路は「口コミ」、「マスメディア」が上位
- ⑤ 認知されている活動は会員の交流
- ⑥ 期待される活動は顕在化されるパンデミックニーズ
- ⑦ ポリオ根絶の活動への認識度は低い

公共イメージ向上

- ①ロータリーロゴを正しく使う →ロータリアン1人1人が広報マン
- ②MY ROTARY登録率、クラブ優秀賞の達成を奨励
→ロータリー活動や地区・クラブ運営に必要な情報やデータを提供
- ③ コロナにおける物資支援や緊急災害支援活動を奨励
- ④ ポリオ根絶活動はロータリーの基本方針
- ⑤ ローターアクト(RAC)の活動を支援
- ⑥主体的な広報活動 →若年層へのSNS活用



メディア
戦略

メディア懇談会

年に1回、報道関係者との意見交換をする場を提供



報道関係者様向け活動概要説明会(メディア懇談会)

実施日:2025 年2 月21 日(金)

1 開会のご挨拶

地区公共イメージ向上委員会 委員長

下出 一

2 ロータリークラブについて

ガバナー

大橋 秀典

3 ローターアクトクラブについて

RAC 地区広報役員長

加藤 奈々

4 ロータリークラブの具体的な活動内容について

(1)(国内)トイレトレーラー事業

大阪平野RC 会員

北井 雄大

(2)(海外)カンボジア・シェムリアップ州立病院 電子カルテ導入

守口イブニングRC 会員

小林 澄子

(3)(青少年)元青少年交換学生

右近いろはさんのご紹介

5 ロータリーが取り組む関西万博関連事業

(1)当地区の万博関連事業(総括)

万博関連事業実行委員会 委員長

立野 純三

(2)当地区のテーマウィーク事業

万博関連事業実行委員会テーマウィーク
事業担当リーダー

貴島陵太郎

6閉会のご挨拶

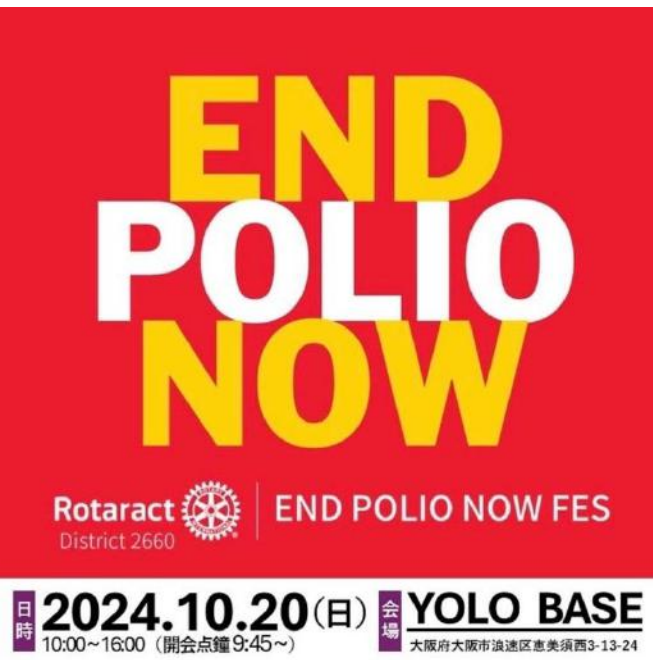
万博関連事業実行委員会 委員長

活動概要説明会 報道機関出席者

日本放送協会 大阪放送局	大阪放送局 副局長	伊藤 綱太郎
株式会社 毎日放送	報道情報局 報道情報局長	羽根 俊輔
関西テレビ放送 株式会社	情報報道局 報道センター 報道部長	江南 敦之
讀賣テレビ放送株式会社	報道局 報道番組センター長	太田 匡隆
テレビ大阪 株式会社	報道スポーツ局長	綱沢 啓芳
朝日新聞社 大阪本社	編集局長	龍沢 正之
毎日新聞社 大阪本社	編集局 経済部長	宮崎 泰宏
読売新聞社 大阪本社	取締役 編集局長	平尾 武史
日本経済新聞社 大阪本社	大阪本社編集ユニット ユニット長補佐	荻野 雅史
産経新聞 大阪本社	大阪代表補佐兼編集局長	中村 將
一般社団法人 共同通信社	大阪支社編集局次長	寒川 昭
新日本海新聞社 大阪支社	週刊大阪日日新聞 論説委員	畑山 博史

世界ポリオデー ローターアクト(RAC)

2024年10月20日に「END POLIO NOW FES」を開催し、ポリオ根絶に向けた予防策の啓発とワクチン接種の重要性を広く伝えるとともに、若い世代の間で低下しているポリオ根絶の認知度を向上させることを目標として寄付活動を実施しました。



大手全国紙 全面広告掲載事業

広くロータリーの活動を周知し、ロータリーの公共イメージ向上と共に、ロータリアンのロータリーに対する帰属意識の涵養を目的とし、大手新聞社への広告掲載事業を行っています。

【2025年掲載時期】
10月14日～23日のいずれか一日

※昨年2024年の掲載広告



2024年世界ポリオデーキャンペーンポスター (Photo: UNICEF)

日本では昭和30年代にポリオの大流行があり、当時多くの小児が神経麻痺等の後遺症を残しました。それに対して、政府は生ワクチンを緊急輸入し、学校などで以後の流行を食い止めた。1980年に1例の発症があった日本は、世界で唯一ポリオウイルス感染は起きない国となった。

しかし、海外ではポリオウイルスがまだ流行している。そのために日本は、海外からの渡来者や旅行者の感染を防止するために、ポリオワクチンの接種を義務付けている。また、海外からの渡来者や旅行者の感染を防止するために、ポリオワクチンの接種を義務付けている。また、海外からの渡来者や旅行者の感染を防止するために、ポリオワクチンの接種を義務付けている。

ポリオ
の根絶、何故そこまで
固執するの？
という声があります。
昭和30年代に我々の世代を襲った
小児麻痺の恐怖が
忘れられないからです。



2024年3月、バチカンで開催されたワクチン接種を支援する活動の様子 (Photo: AFP)

ポリオウイルス感染の現状
2024年10月現在
ポリオウイルスは、主にアフリカ、アジア、南米の一部の国で流行している。日本では、ポリオウイルスの感染はほぼゼロである。



尾身 正
元厚生労働大臣
ポリオ根絶
アンバサダーに

ポリオ根絶アンバサダーに
尾身 正
元厚生労働大臣
ポリオ根絶アンバサダーに



2024-2025年度 日本地区のポリオ根絶活動の様子 (Photo: Rotary)

The Magic of Rotary
プロジェクトを続けるたびに、皆さんはマジック(魔法)を生み出します

ロータリーは、世界中の国々で、人々の生活を改善するためのプロジェクトを行っています。これらのプロジェクトは、人々の生活を改善するためのプロジェクトです。これらのプロジェクトは、人々の生活を改善するためのプロジェクトです。



スタッフローレン・アーネック
国際ロータリー会議員

ロータリーは、世界中の国々で、人々の生活を改善するためのプロジェクトを行っています。これらのプロジェクトは、人々の生活を改善するためのプロジェクトです。これらのプロジェクトは、人々の生活を改善するためのプロジェクトです。

能登半島地震の被災地支援

大阪中央ロータリークラブ

地区補助金災害支援事業として「絆キッチン」を実施。豚骨ラーメン、タコライスの温かい食事を想定し、1人の避難所にも出来立ての料理を届けました。現地のロータリーとの連携で実現した取り組みです。



元青少年交換学生 右近いろはさん

ウクライナ難民を支援するためポーランドに単身渡り活動を行う高校生をロータリーが支援。

右近いろはさんは2022年に当時高校生でありながらロシアのウクライナへの侵攻を知り、「ポーランドに行って避難する子供たちの力になりたい」という思いから自ら支援活動を行うため、単身で現地に赴き、ウクライナ難民の為の様々な支援活動を行ってきました。その精力的な活動がロータリーにも届き、地区全体で彼女をサポートしていこうという事で当地区の青少年交換学生としてポーランドに派遣され、新たな若いリーダーとして現地で活躍をされました。

ロータリーの友
令和5年(2023年)5月号



右近いろは | 2023〜24年度第2660地区青少年交換学生

ロシアのウクライナ侵攻が始まって3か月もたない2022年5月、1人の高校生がウクライナ難民を支援したいと、ポーランドへ飛び立ちました。そんな勇気ある若者が現地で出会ったのはロータリー。彼女とロータリーのストーリーは今始まったばかりです。

(7友 | 編集部)

2022年2月末、ロシア軍によるウクライナ侵攻を知った高校生・右近いろはさんは「ポーランドに行って避難する子どもたちの力になりたい」と、届くまで立ちまわりました。ポーランドで支援活動をしている日本人をSNSで探し、連絡を取りました。しかし、現地で滞在先を見つけることができず断念。それでも諦め切れずに今度はウクライナ人を父に持つ同級生に相談。すると、ポーランドでウクライナ支援をしている、日本語も話せるというヘンリック・カリノフスキーさんを紹介されました。さっそくヘンリックさんに電話をしたところ、受け入れてもらえることに。

とはいえ、右近さんは当時17歳の高校3年生。簡単に行けるはずがありません。親、学校との話し合いを重ねて、出発が決まりました。その姿を見ていた学校の友人たちも動きます。右近さんの旅費費用と、ウクライナの子どものために校内に募金箱を

右近いろは

大阪府在住。2022年3月大塚中学校卒業。第2660地区2023〜24年度青少年交換学生としてポーランドへ派遣予定(スポンサークラブ:大阪RC)



ポーランドへの旅費のため、学校に募金された募金箱

置き、協力を呼びかけてくれたのです。多くの生徒が応援してくれて、多額の寄付金が集まりました。そして、5月6日、ついにポーランドに向けて日本を飛び立ったのです。

飛行機を乗り降り、約24時間かけて1人ポーランド・ワルシャワに降り立ちました。子どもたちに配るお菓子や友達と作ったミサンガなどお土産でパンパンになった大きなスーツケース2つに、リュックを背負い、ショルダーバッグを提げて到着ゲートに現れた女の子を見て、迎えに来たヘンリックさんは驚きを隠せませんでした。

現地では、ポーランド西部にあるプロツワフの難民キャンプで活動しました。そこには戦地から逃れてきた多くのウクライナの子供たちが避難生活を送っていて中には戦争で親を失った遺児もいました。

初日、ボランティアは右近さん1人だけ。ウクライナ語はもちろんポーランド語も分か

りません。何をしていたか分からず、シェルトーにある小さなプレイグラウンドで子どもたちと遊びました。数日後には、他のボランティアも加わってきました。中には同年代の若者もあり、仲間は徐々に増えていきました。

右近さんは、子どもたちに日本語を教えるながら日本から持参した習字道具を使って子どもたちと筆で字を書いたり、時には、折り紙を一緒に折ったりして、ひたすら子どもたちと遊びました。子どもたちからは、ウクライナ語を教えてもらいました。

そんな勇猛果敢な日本の女子高生の話を地元メディアが聞き付け、ポーランドの新聞やテレビの取材を受け、右近さんは一躍時の人になりました。

1か月もたつと、子どもたちや保護者、ボランティアともすっかり仲良くなりました。しかし、タイムリミットは刻々と近づいてきます。子どもたちに寂しい思いをさせたくなかった右近さんは、帰国のことを子どもたちに伝えませんでした。一方で、右近さんも子どもたちのためにまだまだ居続けたいという思いが断ち切れず、断りに相違しますが、学校もあったので、当初の予定通り滞在42日目、後ろ髪を引かれる思いでポーランドを後にしました。ボランティア最終日、右近さんとのお別れを惜しむ子どもたちは彼女の手のひらを離そうとしませんでした。

このポーランドでの一連の支援活動に寄り添ったのがヘンリックさんでした。



習字に挑戦



日本のお菓子は子どもたちに大人気



ヘンリックさんと一緒にポーランドのアレクサンドル公園に出向

「おもろい子が来たて、お父さん」とヘンリックさんが電話をしたのは、豪雨直後RC(第2660地区・大阪府)の近藤義典さん。実はヘンリックさんは元青少年交換学生(ROTEX)で近藤さんがホストファミリーをしていました。「そんなおもろい子、紹介して」と近藤さん。ヘンリックさんは右近さんに近藤さんの連絡先を渡していたのです。

さて、日本に帰ってきた右近さん。ヘンリックさんに言われた通り、近藤さんに会いに行きますが、ポーランドに行った理由を聞かれて、すぐに答えられません。しばらく考えて、「なんか、行かなくて良かった」

そんな秘めた情熱を持つ若者の存在を知って、ロータリーの会員が動きます。富里女子がバナーに話が行き、右近さんは第2660地区青少年交換学生としてポーランドに派遣されることになったのです。スポンサークラブは大阪RC。ホストクラブはヘンリックさんが所属するプロツワフRC(第2231地区・ポーランド)。両クラブは、ウクライナ難民や戦争避難民のいるポーランドの児童養護施設と一緒に支援しています。ロータリーの青少年交換プログラムが巡り巡って、新たな若いリーダーを世界へと羽ばたかせることとなりました。

この夏から1年間、右近さんは再びポーランドを訪れ、現地の学校に通いながらウクライナの子供たちに再び笑顔を届けるに邁進していきます。



令和5年5月号

ロータリーの友 15

TSURUMIこどもホスピス支援事業

大阪南ロータリークラブ

2020年におこった新型コロナウイルスにより本来のこどもホスピスとしての活動が十分にできず、子ども達やその家族にメンタルヘルスの問題が直面し、メンタルヘルスケアに向けた事業を実施



J:com様
取材/放送
成功！

トイレトレーラープロジェクト

大阪平野ロータリークラブ

災害時における本当に役に立つトイレトレーラーを企画・製作。運搬＆供給する際には、車両を緊急又は優先車両で通行できるように配慮いただく協定書を大阪市と締結



テレビ大阪様
取材/放送
成功！

タンザニア甲子園プロジェクト

大阪北ロータリークラブ

「規律・尊重・正義」からなる「Baseballership」(野球道)に基づく「野球のチカラ」により、創造性や個性を伸ばし、価値観や道徳心を育むことを目的としたアフリカ野球・ソフト振興機構と大阪北ロータリーの取組です。また、普段スポーツに接する機会が少ないタンザニアの女子に対しても、ソフトボールを通じて、心身を鍛えるだけでなく、勉学・就業に対する意欲を向上させる取組を行っています。



テレビ朝日様、
開隆堂出版様
取材/放送
成功！

2023-2024年度国際ロータリー地区2660地区 主な奉仕事業の一覧

[illegible]

メディア戦略のまとめ メディア側からの意見

- ① タイムリーなニュースリリース
- ② イベント事前告知、事後告知とこまめな連絡
- ③ 独占記事はマスコミにも好まれる
- ④ 期間の長い取り組みは密着型をマスコミは好む
- ⑤ マスメディアも閑散期はあり、そこはねらい目
- ⑥ 国際的な取り組みは特に好まれやすい
- ⑦ 映像、写真は準備してもらう必要がある。



メディア戦略のまとめ

委員会としての取組と課題

- ① RAC広報委員長も当委員会に参加
- ② メディア懇談会の時期
- ③ メディア懇談会の主席者の層を広げていきたい



マスコミを積極的に活用し、インパクトのある 広報活動を期待しています！

影響力のあるメディアの積極活用



独自性のある各クラブの奉仕活動&タイムリーなニュースリリース

若年層へ訴求効果のあるSNS活用

